

※情報があるものに限ったため、一部掲載されていない演奏曲もございます。ご了承ください。

作曲家	曲名	奏者	奏者の推薦	大淵	守屋	新田	太田
サン・サーンス=リスト=ホロヴィッツ=加藤びよん子	死の舞踏	加藤びよん子	サン=サーンスが原曲を交響詩として作曲していますから、やはりどんな編曲ものでもまず原曲を研究するべきでしょう。私が聞いた交響詩は、シャルル・デュワ指揮だったかと思えます。ヴァイオリン+ピアノ編では「悪魔のダンス」というアルバムがあります。ヴァイオリンをギル・シャハム、ピアノをジョナサン・フェルドマンが演奏しています。リスト~ホロヴィッツ編では「若き日のホロヴィッツ」がおすすめです。	家にある数少ないホロヴィッツの音源を探してみました。全て1942年の演奏でした。カルメン変奏曲のように、とまでは望みませんが、是非他のバージョンを聴いてみたいものです。それにしても、ホロヴィッツ版によるホロヴィッツの演奏は、彼の悪魔的なピアノを堪能できる名演だと思います。	サン・サーンス=リスト=ホロヴィッツでは、エリック=ハイミーが面白いのは。	当然ホロヴィッツの演奏が一番有名です。「死の舞踏」のピアノ独奏用編曲で無駄が少なくおどめなのリッターの編曲で、ダルベールがピアノロールに演奏を残しています。	リスト=ホロヴィッツに加藤びよん子さんがどのような編曲を加えるのか、楽しみです。名編曲を期待します。ヴォロドスによる演奏も「国際シラ友の会日本支部」から手に入ります。
ベートーヴェン	ピアノソナタNo. 1 Op. 2	白石潤一		初期の作品はピアニストのテクニックとセンスを楽しみたいので、グルダ(amadeo)の演奏が好きです。あとは、ドライブ構築感がある時折折つとしたニュアンスを楽しめるナットやハイジックあたりでしょうか(どちらもEMI)。いずれも作偽的ではないけど決して飽きさせない演奏です。	グールド(CBS)装飾音がヘンなのと、わざと拍子を均等にしているのが不可解ではありますが、不可解さを上回る美しさがあります。	一般的にソナタはグルダの演奏をお勧めします。前期のソナタにおいてはシュナーベルの全集もお勧めです。	ベートーヴェンのピアノソナタ全集では、アルフレッド・ブレンデルの録音がよくまとまっていると思います。他にも有名なところでは、バックハウス、ケンプ、そしてアシュケナージ等も全集を録音しています。
ショパン	ワルツ第8番変イ長調 op.64-3	小代康世	すみません。メジャーな曲なので特にコレといったオススメはもちあわせていません。	グレートピアニストシリーズのラフマニノフがとて上品で曲にマッチしています。録音状態が悪いのは仕方ないところですね。	コルトー(EMI)は絶品。心地よいリバート、旋律と和音の絶妙なバランスがあります。この人のショパンは本当に見事です。	ルーベンシュタイン(RCA)の晩年の演奏は、できるかぎり原版に忠実に演奏していて、いろいろ勉強になります。年の功を感じます。リパッティのスタジオ録音(EMI)とプザンソン音楽祭における最後のリサイタル(EMI)でのライブどちらも壮絶で華麗で、天才的な演奏です。コルトー(1934年録音)では、外しまくってますが、変幻自在の音色とニュアンスが神業です。	個人的にはシフラ(Georges Cziffra)の演奏をお勧めしたい。ワルツ全集ならばアシュケナージやカツァリスの演奏が手に入れ易いでしょう。
リスト	2つの演奏会用練習曲より「森のささやき」			リストであればどんな小品でもコッテリ聴かせるシフラ(EMI)がやはり別格かと思えます。	(識者談)アラウあたり、いかがでしょうか(別の識者談)ペライアが素晴らしい。	リストの演奏で最もお手本になる演奏といえばどの曲においてもまずアラウの演奏があげられます(PHOC-3577)。アムランの澄んだ演奏(CDA66874)も一聴に値します。	シフラの演奏もなかなか良いが、この曲に関してはキーシンの演奏がまとまっていて良いと思う。
チャイコフスキー	四季より1月「炉辺にて」			ブレートニョフの演奏しか聴いたことないのですが(グレート・ピアニスト)、あまり好きなタイプの演奏家ではありません。確かリヒテルも録音しているので(Victor)、どなたかのレビューがあるといいのですが...	(識者談)トロップとか、どうでしょうか。	なんとといってもブレートニョフの録音が定番でしょう。ライブでもよく弾いています。中村敏子も意外といい演奏を残しています。	
メトネル	「忘れられた調べ」より「祝祭の舞曲」	金子雄一郎		マルコ・ポーロ(演奏はAdam Fellegi)以外でメトネルの曲を聴いたのはトーマーのメトネル集Vol.2(chandos)が最初でしたが、この曲のインパクトは相当に大きく、メトネルの楽譜とCDを買いあさるきっかけとなりました。他は、アムランのLive at Wigmore Hall(hyperion)は遠過ぎますし、メジャーエフ(DENON)の瑞々しさも心に響くにはあと一息、作曲家の自演もいま一歩。		自作自演(Dante)をまず聴くべきでしょう。その他ではアムランがライブ録音(CDA66765)で洗練された演奏を残しています。	Mejouvetaのメリハリのついた演奏がお勧めです。他にはGeoffrey Tozerのメトネル全集にも収録されています。
サティ	「最後から二番目の思想」より1.「田園相聞歌」、「クロード・ピュッシュー」に、「薔薇十字架の最初の思想、負しき者の夢想」	峯岸涼太			「薔薇十字架の最初の思想」サティの曲集はテッコリーニしか持っていませんが、面白い演奏です。	テッコリーニの演奏が定番です。	バスカル・ロジェがサティのピアノ作品集を出しています(LONDON)。曲のせいかもしれないが、あまり印象に残っていません。
ハイドン	ソナタ 変ホ長調 Hob. XVI/52 第1楽章	松岡秀光	この曲を弾こうと思うきっかけになった、キーシンのCD(1994年の録音、SONY)のパンチの効いた演奏を挙げたいと思います。そのほか、リヒテル(1987年)、シフ(1997年)の演奏も気に入っています。	やはりホロヴィッツの演奏に深い感銘を受けました(APRCO 0057など)。あの威風堂々とした冒頭部分はホロヴィッツのピアノでガツーンと鳴らされるととても印象に残ります。グールドの演奏もグールドらしさが出ているので、とても楽しめます。	ブレンデル(Great Pianists12収録)の音の使い方がユニーク。それに比べるとリヒテル(DECCA)は地味ですが、それはそれでよく考えられた演奏だと思います。グールド(CBS)もいいですねえ。フォルテピアノではChristine Schornsheim(Capriccio)が面白い。全集で2千円台という驚異的な安さも加え、ダントツです。		
チェルニー	「性格的で華麗な序曲」Op.54	小平美弥子 & 山本深雪	この曲は、今のところYaari Tal & Andreas Groethouysenの Carl Czernyの連弾曲集のみしかみつけれられていません。さすがこのお二人の演奏は、浪漫的で息の長い旋律と華麗なピアノに溢れた曲を素晴らしい演奏で演奏しています。ライブでは2004年5月15日(耕心館)の「中井恒仁氏+武田美和子氏」による演奏も、聴いているものが幸せになれる位それはそれは素晴らしい演奏です。				
グラナドス	「ゴイエスカ」より第1曲 愛の言葉	坂爪あや子	やはり、ラローチャに勝る演奏はないように思います(私が聴いたのは、BMG BVCC-37269)。こんな難曲を弾いてみようなどと私に勧誘いさせる元になった演奏でもあります。それほどまでに軽々と弾いているのです。きらきらとした輝きを放ちながら零れ出てくる音の美しさには、本当にため息が出ます。一方、あえて他の演奏を探して手に入れたのが、ダグラス・リヴァ(Naxos, 8.554403)。グラナドスの楽譜校訂も持っているピアニストだそうです。肝心の演奏はというと、ラローチャの流麗さに比べると若干「言葉に詰まっている」ような印象を受けます。照れ屋でいささかぶっきらぼうなマホという感じです(笑)。	ラローチャでは、完璧な77年の演奏(DECCA)も円熟味を増して力どが取れた89年の演奏(RCA)も共に素晴らしいです。個人的には89年の味わい深さを取りたいところです。	ラローチャ(デッカ)。ステージをゆっくり歩いて入場する瞬間から感動するほど、オーラがあります。もう聞けないとは残念です。	Ele Peleleならグラナドスの自作自演がピアノロールと録音(VIA/IPA 1001)の両方で残っています。	この曲はあまり聴いたことが無いのですが、ラローチャ(Larrocha)の演奏は素晴らしいと思います。

作曲家	曲名	奏者	奏者の推薦	大淵	守屋	新田	太田
スクリャービン	幻想曲 Op.28	実方康介	ソフロニツキの演奏が素晴らしいと思っています。他の演奏はグレムザー(NAXOS)を聴いたのみ。そちらはあまり好きではありません。	スクリャービンの薫りを備えた後期ロマン派の曲ということで、いわゆるスクリャービン弾きはこの曲を得意としない場合が多いように思うのですが・・・例えばゲンリヒ・ネイガウスの演奏はとても驚ってくるのですが、後半ちょっとキツイのは否めないところです。現代の人では、やはりアムランの演奏が高レベルにバランスが取れていて私は好きです(他のソナタはあまり共感できませんが・・・)。	ザラフィアンツ(ALM)、初めのメロウな響きから並外れた集中力、フレーズ間の絶妙なコントラスト、移り行く和音のヴィヴィッドな動きでこの上なドラマチックな展開に圧倒されます。強弱のレンジが広く、さらに音に色や匂いを感じる、つまり聴覚だけでなく五感を刺激される演奏。絶対オススメ!	ロシアのスクリャービン博物館で買い込んだ謎のテープに入っていたソフロニツキの演奏が素晴らしいと思ったのですが、いつの録音なのか不明な所が残念です。アムランの演奏(CDA67131/2)も素晴らしいですが、スクリャービンでなくアムランに聴こえます。	台湾生まれのピアニストGwyneth Chenの演奏がお勧め。(1999 ProPianoRecords)ヴオロドスの演奏はこの曲にしては軽い演奏だと思う。ザラフィアンツ(1999 Kojima Recordings)はかなりゆっくりに演奏が特長。全違う曲だが、2台ピアノで「幻想曲」(遺作)が存在する。曲想からして若い頃の作品だと思われる。こちらはラベック姉妹が録音している。(1994,Philips)
バッハ	フーガの技法よりコントラプンクトゥス9		まずhyperionのニコラーエフ(CDA66631/2)。どの曲もしっかりと各声部が歌い上げられ、芸術的価値の非常に高い作品であることが一聴して判る。ALBAというレーベルのRisto Lauriala(ABCD151)も充実した演奏で全集ではお勧め。SonyのEssential Classicsシリーズのバッハのアルバム2枚組(SB2K63231)に含まれるCharles Rosenの全曲演奏も次にお勧め。現代曲を得意とする人らしくテンポの速い曲が秀逸。グールドは全曲聴きたかった。				
シチェドリン	24の前奏曲とフーガより第3番	大淵良弘	メロディア(BMG 74321 36906 2)の自作自演で十分。切れ味鋭い演奏が特徴。25のポリフォニックな手帳と24の前奏曲とフーガが収録されており、共に驚嘆に値する佳作。			メロディア(BMG 74321 36906 2)の自作自演。	
カプーステン	24の前奏曲とフーガより第24番		自作自演以外があれば是非聴いてみたい。しかし本人を凌駕する演奏の出現は期待薄。			カプーステンの曲は自作自演に勝る演奏はないと思われます。	自作自演のCD以外は今のところ無いと思います。24の前奏曲とフーガはいろんな意味で革新的な曲だと思います。
アムラン	前奏曲とフーガ		アムランの出世作となったザ・コンポーザー=ピアニスト(hyperion CDA67050)に収録。自分で譜読ましてから改めて聴くと、信じられないほど無茶苦茶上手い。			アムラン本人によるザ・コンポーザー=ピアニスト(hyperion CDA67050)に収録。	本人のCD以外、音源は出ていないと思います。非常に難易度が高いこの曲、生演奏を聴ける機会は滅多に無いでしょう。
ポルトキエヴィチ	Esquisses de Crimee Op. 8 NO. 1 Les rochers d'Outeche-Coche.	長谷川和代		この曲は未聴です。ポルトケヴィチはカツアリスのアルバム(Piano21 21004)とCoombsのピアノ曲集2(hyperion CDA67094)のみ持ってます。前者は清々しい演奏ですが、後者はあまり印象に残らず・・・。なお、Coombsの曲集1にもOp.8は含まれていません。			
メトネル	ソナタ・ロマンティカ op.53 No.1 第2楽章	吉川恵太	アムラン/ピアノ/ソナタ全集(東京エムプラス(ハイペリオン)MCDA-67221~24(99年4月)) どんな曲も、最初に聴いた音源がいちばんいいと思ってしまふ、という傾向は私だけでなく多くの方にあると思うが、今のところ、やっぱりこれが好き。	2楽章に限定するならば、いささか速度超過気味ですがアムラン(hyperion)は素晴らしいです。他の楽章も十分に素晴らしいのですが、やはりちょっと違う気が。メランコリックな曲については他のソナタも含めてトージャー(chandos)の解釈が自然ではないでしょうか。ミルン(ORD3498)のように骨組みを浮き立たせる演奏もこの2楽章では許容されるでしょう。		アムラン/ピアノ/ソナタ全集(ハイペリオン)MCDA-67221~24(99年4月)	アムランのピアノソナタ全集以外では、Geoffrey Tozerのメトネル全集が比較的手に入り易いでしょう。
ブラームス=シフ	ハンガリー舞曲第5番		◇ハンガリー舞曲第5番:「La Campanella」Georges Cziffra(EMI, TOCE-59703)←楽譜付 ◇トルコ行進曲:「Piano Transcriptions」Arcadi Volodos(Sony, SK62691) 共に、編曲者本人による演奏。(コメントはあえて割愛、耳の良い方々にお任せします。)	シフは編曲は2通りありますが、どちらで演奏されるのでしょうか?EMI(超絶のブラームス)で両方聴くことができますが、HUGAROTON(HCD31596)では長いバージョンのみ聴くことができます。		この手の編曲物ではまず自作自演を聴くのが一番です。ちなみにブラームス=シフのハンガリー舞曲第5番は2種類の編曲があります。原曲では、子供の頃聞いたディ・チアーニの研ぎ澄まされた演奏が忘れられません。見つけた方がいたらついでにご連絡下さい。	シフ本人以外の録音は無いと思います。ちなみに、シフの「5つの演奏会用練習曲」の最後も「ハンガリー舞曲第5番」の編曲です。やはり派手な編曲ですが、難易度はやや低いと思います。
モーツァルト=ヴォロドス	トルコ行進曲	塩田絢子		ヴォロドス・デビュー(SONY)に収録されていますが、この編曲アルバムはホロヴィッツ、シフ、フェインベルグらに自作を交えてとても楽しめる1枚です。改めてホロヴィッツの演奏の素晴らしいさを実感させられたような気もしますが、演奏家の試みは評価したいところです。	原曲ですが、編曲モノに耐えうるインパクトある演奏を。イグナツ=フリードマン(Naxos)、一音一音の練り上げられた音が、SPの雑音の中から浮かび上がってきます。	この手の編曲物ではまず自作自演を聴くのが一番です。原曲では、録音は古いですが、エミール・フォン・ザウアーが繊細な「ザウアータッチ」を聴かせてくれます。	ヴォロドス(Volodos)の演奏会では必ずアンコールで演奏されます。「国際シフ友の会日本支部」にも多数の音源が存在します。
カプーステン	8つの演奏会用練習曲より第1番「プレリュード」、第6番「パストラル」	小幡創	作曲家本人による自作自演に勝るものは今のところないと思います。アムランも8曲弾いていますが、音にいまいち「粘り」がなくて、自演を聞いた後だと物足りない感じ。	自演を初めて聴いた時は本当に衝撃でした。聴く分にはこれが必要十分な気がしますが、何曲か自分で弾いてみた後で自演とアムランの演奏を聴き比べると、アムランの演奏の凄さを実感します。		カプーステンの曲は自作自演に勝る演奏はないと思われます。	現在のところ、自作自演が一番のお勧めです。こだわり〜の演奏会で名演奏が生まれることを期待しています。
メトネル	牧歌ソナタ op.56	大和誉典	手元のソナタ全集はM.A.Hamelinによるものしかないのですが、他にもG.Tozer, H.Milneあたりが手に入りやすいと思われまふ。Hamelinによる牧歌ソナタはちょっとあっさりして(特にクライマックスのところ等)、その辺をもう少したっぷり弾いてくれた方がいいと思うのですが如何でしょう。ちなみに個人的にはこの曲との出会いはE.WildのCheskyへの録音(メトネルとの出会いもこのCDだったように記憶しています)だったのですが、こちらも非常にフランスのいい演奏をしていて、メトネル入門の一枚としてお勧めです。	14曲のうち最も叙情的なこのソナタに求められるもの・・・重要なフレーズをいかに艶やかかつ印象的に奏でることができるか・・・という観点からは、トージャー(Chandos)が圧倒的な名演奏です。ワイルド(Chesky-Records)はややモタつき気味、Fellegi(MarcoPolo)は控えめなテンポ設定ですが、共に曲の要求に忠実な演奏で、メジャーエフ(音楽之友社)もほぼ同様です。アムラン(Hyperion)はこの曲に限っては淡泊すぎるため、オススメできません。		アムラン(CDA67221/4)の演奏がまずお勧め。この手の感情をストレートに表に出さない音楽はアムランにひたつたかと思えます。	メジャーエフ(Mejoueva)のCDも日本では比較的手に入り易いでしょう。音楽之友社から発売されています。

作曲家	曲名	奏者	奏者の推薦	大淵	守屋	新田	太田
クルターク	涙、真の人の追憶の中に		○ アデス—20世紀ピアノ音楽のミニチュア アデス EMI(2000) クルタークの演奏は、このCDしか知りません。別の曲なら自作自演があります。				クルタークの存在は守屋さんに教えていただきました。ので、音源情報も左に同じです。
ショパン	ノクターンOP.48-1	守屋明彦	さすがに枚数持ってますが、残念ながら最初から最後まで全部好きという演奏が見つかりません。では自分が〜と会心の演奏に達することが出来ないところがもどかしい。	ショパンのノクターンはフランソワ(EMI 7243 5 68151 2 4)で聴いています。多分プレイエールで弾いているのだと思うのですが、曲とピアノと弾き手がピタリとハマっています。あとは、グレートピアニストで聴けるピレスもいんじゃないでしょうか。後半を必要以上に鳴らしている演奏がたまにあります。私的には却下かな。	アシケナージ DECCA(1997)冒頭のmezza voceも、中間部の sotto voceも、再現部の doppio movimentoの agitatoも楽譜通りに弾いているなあと感じますが、もともとドラマが欲しいなあと思ってしまいます。	ピリス(グラモフォン)真珠の様な美しい音ですが、生のピアノの音というよりは編集で作ったという感じの音です。ライブで聴いたケマル・ゲキチのアンコールが衝撃的に美しくついでです。こちらは真正正銘の生の音でした。	この曲の録音は数多くありますが、誰が何と言おうとマルタ・アルゲリッチ様の演奏をお勧めします。EMIから1978年と1979年のライブ録音を収録したCDが出ています。
スカルラッティ	ソナタK45 L265、K193 L142、K198 L22	浅野裕子		K198はRobert Casadesus(EMI)や Szokolay(Naxos)あたりでしょうか。K193はFou Ts'ong(Collins)と Queffelec(Erato)を持っています。この3曲は含まれませんが、スカルラッティはシフの Hungaroton録音がお勧めです。	ホロヴィッツ(多数)この曲を弾いてるが忘れましたが、スカルラッティと言えましょう。	スカルラッティはホロヴィッツ(SRCR5028)が有名ですが、個人的にはワイゼンベルグの超インテンポでも色がでている。宝石のような音のスカルラッティ(グラモフォンDCG81201)がー押しです。その他、スカルラッティ=グラナドス(VAIA/IPA 1001)等もなかなか面白くあってよいかと思われれます。	
プロコフィエフ	ピアノソナタ第3番			スピード感ではワイゼンベルグ。後半の突進力ではギレリス。中盤の破壊力ではガブリーロフ。どれも悪くないのですが、大学入学時に購入したベトロフの全集が当時の宝物だったので、この演奏に愛着を感じています。テンポと重量感のバランスに優れた好演です。	Murray McLachlan(OLYMPIA)全集の3番目で私の好きな6番、「悪魔的暗示」なども一緒に収録されていて、コストパフォーマンスが(個人的に)良い。趣味はあがるけど、ガブリーロフ(グラモフォン)みたいな一気呵成なものアリでしょうか。		Yefim Bronfmanの演奏がお勧めです(SME)。他にBoris Bermanのピアノ/曲全集やMatti Raekallioが「ソナタ全集十束の間の幻影」などが手に入り易いかと思います。
バッハ	「イタリア協奏曲」へ長調 BWV971	本間健特	イタリア風コンチェルト集 リナルド・アレッサンドリーニ、コンチェルト・イタリアーノ OPUS 111 OPS 30301 2004-08-01 すがすがしい限りの演奏です。	グールド(Sony)は今更の感がありますので、ここはファジル・サイ(Warner Music 3984261242)を挙げておきます。リズム感に溢れ、一音たりとも曇りのない見事な演奏です。2番目にはワイゼンベルグ(EMI)あたりでしょうか。この曲はバッハでは比較的自由に弾かれているようですが、彼の個性的な演奏スタイルを、特に3楽章において楽しむことができます。また、シュタイアー(チェンバロ)のアーギークに富んだ演奏(BMG)も個人的には大変面白いと感じます。	Evgeni Koroliov (hanssler)、考え抜かれた構成、一音も無駄にしていないうる姿勢は感動的。物凄く宇宙が広がります。ゴルドベルグ変奏曲で生演奏を聴いたことありますが、素晴らしいピアノです。面白いのはブーニン(EMI)、明快な音でスプリングかつ楽しい演奏です。天才です。		
ベルリーニ	ヘキサメロン(ベルリーニの「清教徒」行進曲による華麗なる演奏会用大変奏曲)	長岡ゆり		この曲のCDを購入した記憶がないのですが、オマケ扱いのものが2枚ありました。1つは Kerszenbaumという人の演奏で、オフチニコフの超絶技巧練習曲集とセットになっている2枚組の Etudes de virtuosite (EMI 7243 5 72783 2 4)に収録、もう1つは Lewenthalの演奏で(ELAN CD82276)、アルカン作品集とのカップリングでした。なお、前者のオフチニコフの超絶は素晴らしい、後者のアルカンもとても豪快な演奏で、共に聴き応え十分のCDです。曲については企画・構成・主演の全てがリストですので悪しからず…。	Lewenthal (BMG)ジャケットのコフモチ写真に惚えましたが、期待以上？に音楽していてお気に入り。ダイナミックな展開とフレーズ的美しさに惹かれ、イヤに聴いてしまいます。Marshvev(Danacord)所々驚くところがあり、かなりのテクニシャンのようです。Kerszenbaum(EMI)2枚組みでノルマの幻想まで入っている。なのでコスト的にはオススメ。	アムラン:何を弾いてもアムランに聴こえる彼の演奏ですから、当然アムランに聴こえる演奏です。レーヴエンター、いつも熱い彼らしく、大変エネルギーのある、19世紀的な演奏です。	調べてみると結構重要な作品であるみたいですが、あまり知りませんでした。EMIから出ているリストのピアノ作品集(2枚組み)の中に入っています。聞いてみると曲の大部分がリストが作っているような気がします。
バッハ	バルティータ 第5番 長調 BWV829	田中博幸	バッハの演奏家というグールド、シフ、ニコラーエフ、リヒテル、ヒューイトなどがよく挙げられるが、それよりも私が優れると思う録音を3つほど紹介したい。以下のCDは第5番だけでなくバルティータ全曲が収録されている。(なお2005年4月現在、ニコラーエフもリヒテルも、この曲の録音は出ていないと思われる) 1)ウラディーミル・フェルツマン(ピアノ)、Camerata GmCD-15042-3 バルティータ全曲を通して、私が最も優れていると思う演奏。聴いていると惹きこまれる感覚を持つ。決して寄せてらう演奏解釈ではないが、時折他の演奏家に見られない装飾音が入ってきてハッとさせられる。ジューグのリピートでは、声部ごとに音程が低くなったり高くなったり、その組み合わせり方も自然である。 2)セルゲイ・シェブキン(ピアノ)、Ongaku Records 024-109 「自由かつ軽妙」という言葉がぴったりだろう。全体的に速度は速めで、リピートでは装飾音がこれでもかというほどたくさん入る。気楽な気分ですっきり聴ける演奏である。 3)スコット・ロス(ハーブシコード)、Erato 3984-28167-2 やはりオリジナル楽器による演奏も挙げずにはおけない。美しい音の出方でいて、躍動感に溢れている。	1番、2番そして4番には強い思い入れがあるのですが、5番はあまり注意して聴いておりませんでした。ただ、3番と5番を偏愛している知人からグールドの5番のプレアンプレムのフレージングについて繰り返しレクチャーを受けて擦り込まれてしまったため、この5番だけは困ったことにグールド以外の解釈では満足できなくなっており、それはさておき、バルティータを各演奏家のアプローチの仕方を楽しむ格好の素材として認識しているのは私だけでしょうか？バッハのライヴソング時代の鍵盤音楽にはあらゆる解釈を許容できる普遍性があるため、できればこれからのピアニストには、グールドのように曲の持つ可能性を私達に知らしめて欲しいと思っています。	(識者談)シフがすばらしい。	ロザリント・トゥーレックの若い頃の録音をお勧めします。	
シューベルト	水車屋と小川 S.565-2	木沢麻由子	この曲は鈴木弘尚さんの演奏で知りました。この原稿を書いている今はまだ発売されていませんが、この曲も収録のデビューCD「ETUDES SYMPHONIQUES」はきっと素晴らしい、是非、聴いて頂きたい一枚であると確信しています。	リストは基本的に守備範囲外のため、知らない曲だらけです。シューベルトの歌曲はカツアリスが弾いていたような気もしますが、音源を知りません。…などと書いた後に、CDの曲名にある「der Bach」が「小川」の意だと知り(あのBachは日本では小川さんになるのですね！)、私も守屋さんと同じ92年のフーズム珍曲祭の音源で聴いていたことに気付きました。この年のCDはお宝入りのためか？2枚所持しております。	Serge Babayan (Danacord) "Rarities of Piano Music at Schloss vor Husum" 1992に収録。アムランとか一緒に入っていて「マニアックなのはちょっと〜」と思う人もいようが、レガートの美しい演奏。原曲だと、フィッシャー=ディースカウ、ジェラルド=ムーア(P)が泣けてきます。		安定したテクニクと表現力では Alexander Gindinの演奏がかなり良いと思います(2000.Triton)。Gindinの演奏ではラヴェルの「ラヴェル」Gindin編が素晴らしいです。

作曲家	曲名	奏者	奏者の推薦	大淵	守屋	新田	太田
ドビュッシー	映像第1集(水に映る影、ラモー讃、運動)	金子一郎	ミケランジェリの録音が一般に評価されているようです。しかし、それも20年ほど前の情報なので、最近はもっと素晴らしいものがでてくるかもしれません。ミケランジェリのもは、音の美しさにおいて他の追随を許さないと思っています。しかし、いまは、恐らく、歌いまわしなどで一時代前を感じさせるかもしれません。	モラヴェッツは凄いですね。グレートピアニスト・シリーズで聴けますが、当シリーズの一番のオススメがこのモラヴェッツのフランスものの演奏です(かなりアクティブな演奏なので、好みは分かるとも思います)。その他では、上杉春雄(EMI TOCE-55524)の豊かな響きとクリアな音がとても印象的です。ドビュッシーは往年の録音よりは現代のピアニストによる現代の録音の方がいいと思います。	ノエル=リー(naive)の演奏、高低のコントラストが美しく、聴いていて気持ちよい。	音の美しさではミケランジェリの名盤(aura)がお勧め。「水に映る影」は意外にもローゼンタールが演奏を残していますが、似合いません。	個人的にはプーニンの演奏がいいと思います。その昔レーザーディスクが存在しましたが、その後DVDが発売されたかどうか不明です。
伊藤康英	琉球幻想曲(ピアノ連弾版)	森原百合 & 新田英之	1. 交響詩「時の近く」・・・伊藤康英吹奏楽作品集 "As Time is passing on" Band Works by ITO Yasuhide CACG-0015 (ピアノ/独奏と吹奏楽のためのバージョン) ピアノ:伊藤康英 山田昌弘指揮、NTT東日本東京吹奏楽団 1999年東京初演の時のライブ録音です。 2. 琉球幻想曲 伊藤康英ピアノ作品集 MK-0007 ピアノ独奏版 作曲家本人による演奏で、かなりうまいです。				
リスト=ヴォロドス	ハンガリー狂詩曲13番	太田 豊	アルカティ=ヴォロドス、マイアミ、3/9/2000「国際シラ友の会日本支部」を参照してください。 http://www4.osk3web.ne.jp/~cziffra/ 昨年12月の日本公演では上記のCDよりもさらに派手な演奏+信じられないスピードで弾ききっていました。 リスト作曲の原曲ならば音源は多数あるはず。 お勧めはシフラ(Georges Cziffra)の演奏。 「Marc-Andre Hamelin plays Liszt」(Hyperion)ではほんの一部アマランが編曲している部分がある。	ヴォロドス編は聴いたことがあります。原曲については、アマランの演奏が笑えるくらいハイスピードで面白いです。	原曲ですが、シフラ(EMI)の早いパッセージの弾き方には関心します。	原曲ではプーニが録音を残しています(Pearl)。あまりにも素晴らしい演奏で感服してしまいます。当然シフラの2回の録音は定番です。	
武満 徹	雨の樹素描II		あまり音盤を知らないですが、日頃聞いている岡田博英(カメラータ、28CM-568)の演奏は自分では気に入っています。	聴いたことあるのが小賀野久美さんという方の演奏です。昔テープに落としたものなので、CDレーベルもわからないのですが、諸井誠と武満徹のカップリングでした。			小学館より武満徹全集が発売中です。全5集で総額15万円くらいになると思います。CDも全部で60枚くらいあったと思います。
シェーンベルク	5つのピアノ曲op.23より第5番「ワルツ」	松林伸生	ポリーニ盤(グラモフォン、POCG-2926)がお勧めです。 構成美を厳密に追求し、しかも切れ味のいい演奏。私はポリーニのCDでは、このシェーンベルク集は随一だと思っています。他に有名な盤としてグールド(CBS SONY、28CD-5270)がありますが、ポリーニとはかなり異なるアプローチをしていて、まったく違う曲にさえ聞えます。	ポリーニのシェーンベルクが決定盤かと思っています。ポリーニの良さはやはりベートーヴェンやショパン・シューマンではなく、現代曲(ドビュッシー以降)において発揮されているようです。	Elizabeth Klein(Scandinavian Classics)、2枚組で、シェーンベルク、ウェーベルン、ベルクの全集になっています。ポリーニ、グールドにくらべれば若干淡いですが、お徳さが残ります。		その他に高橋悠治、園田高弘、等もこの曲を録音していますが、やはりポリーニの演奏がお勧めです。
カプーステン	ピアノソナタ第1番より第4楽章	植松洋史		8つのエチュードのアムランの演奏では自演がベースになっている印象を持ちましたが、ソナタ1番のオスボーン(Hyperion)は自演と全く違う解釈になっているのが面白いですね。作曲者の意図とは違ってしまうが、私はオスボーンの解釈に一票。こういう聞き比べを沢山できれば面白いのかもしれませんが、まだまだ録音が少ないですね。		カプーステンの曲は自作自演に勝る演奏はないと思われます。	これも、自作自演が一番良いと思います。最近、この曲は色んな人が録音するようになってきて嬉しい限りです。
ベートーヴェン	ピアノソナタ第22番 へ長調作品54	石藤紀子	前述の解説は「ごめんさい、僕の話はとりとめがなく、しかし、ほんとにこの曲はとりとめのない、謎めいた曲ですよ。リズムがね。リズムでもって音楽を生かすことのできる、強いか弱いかかコントラストをつけながら、で、いわゆるこの歌わせるってんじゃなくて音楽を作るのがうまい人が弾くととても面白い。それで僕がよく知っているのは、前にも話したグルダと、それからアルフレッド・ブレンデル。この2人ですけど、まあ、他にもいますけど、特にうまいのはこの2人だと思っている。今日はブレンデルの演奏を聴きましょう。」で終わるのですが(テープ起こしました(笑))、自分は、バックハウスの演奏も、特に後半のスピード感が好きです。	普段あまり聞かない曲なのでいろいろ聞いてみたのですが、ハイドシェク(EMI)がピッタリでした。中期の規模のこの曲のサイズに合った過不足ない表現が説得力があります。それとこの曲はテクニクのしっかりしている演奏の方がいいですね。期待したグルダ(amadeo)は意外に平板でした。	シュナーベル(EMI)。音の流れが非常に自然で表情が豊か。テンポが心地よい。解釈の深さを感じます。	グルダの演奏をお勧めします。	ベートーヴェンのピアノソナタ全集では、アルフレッド・ブレンデルの録音がよくまとまっていると思います。他にも有名なところでは、バックハウス、ケンプ、そしてアシュケナージ等も全集を録音しています。
リスト	ドン・ジョヴァンニ幻想曲	不破友芝	特にごさいません。皆それぞれに手を加えたりして面白い演奏をしています。	こういう曲を完璧に弾いてしまうアマランはやはり凄いですね。Music & Arts(CD-723)とHyperion(CDA66874)の2枚ありますが、前者は荒削りながらヒートアップし、後者は超人的な完成度と、どちらも聴き応え十分です。APRのパレル2枚組には2種類の演奏が収録されていますが、突然テンポが変わったりしてスリリングで大変面白いです。オグドンの後半の異常な盛り上がり、ボレの種な演奏(この二人はグレートピアニストから)、更にワイルドのド迫力な演奏(Brilliant Classics 99273)など、この曲はどの演奏も気合が入っていて面白いですね。あと、ランランの札幌公演(5/17)にて演奏されるのですが(地元ネタで失礼!)、聴きに行けるかは微妙・・・。	オグドン、(Great Pianists73)、頑張っています。原曲では、フルトヴェンゲラー(EMD)、序曲の重さが強烈。	省略したり一部改定してますが、フリードマンがピアノロールに残した演奏(N8805)が最も早い演奏です。ポレットが18分くらいで弾いている所をフリードマンは9分台で弾いています。他にはケマル・ゲキチのライブ演奏が壮絶で記憶に残っています。全部ちゃんと弾いている音源としてはアマラン(CDA66874)をお勧めします。	この曲を弾く時には練習のしすぎで右手を怪我しないように注意しましょう。